子供と高齢を重視

岸本　これからは、子どもと高齢者対象の事業に絞っていくべきでしょうね。それと、国際学会などでの伝統文化紹介イベント。これは、わの総力をあげてやるわけで、ＫＳＣの実力をみてもらい、ＰＲもできる絶好の機会になる。

道満　事業をやる以上、拡大・充実させる努力をすべきでは。健康関係を見ても、森林浴だけではさびしい。

岸本　いや、手を広げすぎるより、できる範囲で中身を充実させる方がいいと思う。

一森　毎年やっているから、という理由で続けている事業も多い。少し整理したほうがいいものもある。一般市民ばかりでなく、会員を対象にしたイベントも充実させたいですね。

▲双眼鏡を手にバードウォッチング（村内で）

道満　今後、企画・運営にあたってわれわれ担当者が留意すべき点はなんだろう。以前は、担当者個人がいくつかのイベントを受け持ち、事前交渉から実施まで一切をやっていた。今は、事業部としてチームで動くようになってきたが、経験が充分生かされているとはいえない。

岸本　イベントが終われば反省会を開き、次のイベントに生かす、という組織として当たり前のことがなかなかできない。今後は、この点を重視したい。

一森　そうやね。反省会・勉強会は必要です。そこで、どこを改め何をなくすかという話も出てくる。

ニーズを生かして

道満　じゃ、どんな企画を増やせばいいのだろう。

岸本　「子供に見せる」ではなく「子どもにやらせる、作らせる」物づくりの企画をふやしたい。それと、「こんなイベントをやってほしい」という子供たちのニーズを汲み取る努力も必要だ。

●好評だったイベント

①子供わいわいストリート（5月・村の芝生広場）
②国際学会での伝統文化体験教室（8月・ポーアイ）
③しあわせの村夏祭り（8月・芝生広場）
④夏休み工作塾（8月・村の研修館）
⑤秋のバードウォッチング（11月・村内）

道満　イベント会場でアンケートを取るとか、ＦＡＸでリクエストしてもらうくらいは、すぐできる。

一森　やる側が楽しめる企画が一番。名札作りで「お母さんありがとう」と書いた子がいて、こちらもジーンときた。子供の時やったことは生涯忘れない。そういうチャンスを与えてあげるようなイベントをやりたいですね。

道満　そんな企画にプラスアルファとして〈食〉をくっつけると楽しいですよ。

一森　しあわせの村の自然環境はすばらしい。写生会とか昆虫採集、バードウォッチングなんかはグループわの、特色になると思う。

岸本　運営に当たっては、どんなことができるのか、自分たちの能力、スキルを見極めることも必要だし、顧客名簿みたいなものを自前で増やす地道な努力もしないと。

道満　忘れてならないのは、たくさんのサークルやＯＢの皆さんのおかげでイベントが実施できていることだ。企画などにもサークルの提案、意見を生かすようにしたい。

一森　お手伝いくださるスタッフをどこに頼むか、という問題も大きい。文化部会の一部のサークルに偏っている面があるので、地区会などにお願いすることをもっと考えてもいいですね。

道満　事業をやっていて楽しいことはなんですか。自分の企画したイベントに、たくさん人が集まってくれるのは気分がいいものですが。

スタッフの楽しみ

岸本　なんといっても、子どもたちとの触れ合い、笑顔ですね。「よかったよ。ありがとう」のひと言で疲れも吹っ飛びます。

一森　子どもたちに先生って、呼ばれるのは照れくさいけど嬉しい。（笑い）

道満　〈やってよかった。参加してよかった〉と参加者やスタッフに満足してもらえるような、楽しいイベントをめざして、これからも頑張りましょう。

（この座談会は22年12月7日に実施。　広報担当・南形徹がまとめたものです）